

標準化の普及活動について

2022年3月7日 標準化推進部会 普及推進委員会



普及推進委員会の体制

第一の目的として

2010年

発足

現場最前線にいる営業マンが医療情報の標準化に対する取組みを理解し、積極的に提案できるよう普及活動を行う。

メンバー構成営業中心の

委員長 : 富士通株式会社

副委員長:日本電気株式会社

日本アイ・ビー・エム株式会社

株式会社日立製作所

株式会社NTTデータ アイ

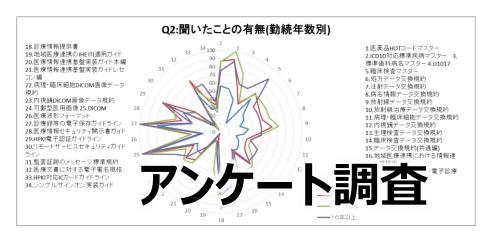
株式会社ソフトウェア・サービス

キヤノンメディカルシステムズ株式会社

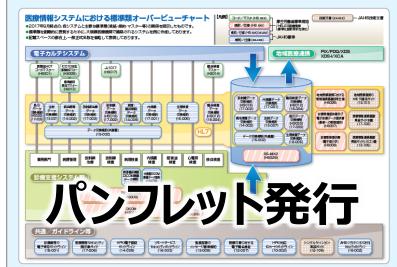
メディカルデータベース株式会社



普及推進委員会のこれまで









2021年度活動計画 (普及推進委員会)

普及推進委員会では、これまで各会員の営業担当者が医療情報の標準化に対する取り組みを理解し、積極的に提案できるような普及活動を行ってきた。特に標準化関連用語のパンフレットや各種標準類の用語解説と標準化関連用語やシステムの関連性を俯瞰したオーバービューチャートを発行し一定の成果はあった。

また、各会員の営業担当者へのアンケート結果から、若年層の標準化関連用語に対する理解度が極めて低い ことが顕著に示された。そのため若年層からの知識の底上げが全体の理解度向上につながると考え、営業経験 5年目程度向け基礎セミナー開催、熟年層と中堅層に向けた生涯教育の方策を考えてきた。

今年度は下記の活動を行う。

(1) パンフレットの定期的な最新化

標準化関連用語のフォローアップとそれに伴うオーバーフローチャートの見直し

(2)標準化の普及推進におけるセミナーの実施

事業推進部事業企画委員会とのセミナー共同開催 生涯学習用JAHIS内e-Learningの企画

(3) アンケートの実施

隔年で実施しているアンケートによる普及状況の経年変化の調査



パンフレットの定期的な最新化

%OVC (OverViewChart)



改版の方法

- 今年度は、Web版をマイナーチェンジ(JAHIS標準の版数アップなど)しつつ、来年度の大規模改修(メジャーチェンジ)に向けてデザインの検討を開始する
 - ◇ マイナーチェンジ:1回/半年Web上のOVCのみを最新化掲載済みの厚労省標準、JAHIS標準の版数を最新化リンク先の確認と不具合があれば修正。
 - ◇ メジャーチェンジ:1回/数年(不定期) 大規模な環境変化時に検討 直近では2022年度に行う(処方箋電子化を考慮)

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会



マイナーチェンジの実施方針

- 「データ交換規約 (共通編)」は、最新がV1.2であるが、 V1.0とV1.1がまだ旧版ではなく、現役の状態となっている。
 - →OVCは、概要を把握することが目的であり、当該規格の細かい背景までを表現する必要はないと判断。現在もV1.0 およびV1.1が現役であることは、JAHIS標準類の詳細説明ページ等での表現を検討いただく。
- 2017年以降に制定された「厚労省標準」「JAHIS標準」をどうするかについて議論。
 - →OVCの目的を考えた時、JAHIS標準を発信していくことは 当然ながら、厚労省標準も標準普及を目的としたときに網 羅されていることが望ましい。

© JAHIS 2022



マイナーチェンジの実施方針

• 追加分を、最適と思われる場所にプロットしてみた結果、 電子カルテの内部に表現されることが望ましい項目がある

```
HS-029 患者状態アウトカム用語集
```

HS-030 データ入力用書式取得・提出に関する仕様

HS-032 HL7CDAに基づく退院時サマリ規約

HS-033 標準歯式コード

HS-034 口腔診査情報標準コード仕様

© JAHIS 2022



マイナーチェンジの実施方針

- 電子カルテの処方オーダ交換規約の近くに記載 HS-027 処方・注射オーダ標準用法規約
- 地域連携に追加するもの
 17-007 JAHIS地域医療連携における経過記録構造化記述規約Ver.1.0
- 診療支援システム群の病理検査の近くに記載20-004 JAHIS病理診断レポート構造化記述規約Ver.2.0
- その他
 18-007 健康診断結果報告書規格Ver.2.0
 データ交換規約(共通編)が、9種の個別データ交換規約をカバーする

-般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会



OVCの表記確認

- OVCの版数管理を行い表記をする例) 現行1.0→マイナーチェンジ1.1/メジャーチェンジ2.0
- オーバービューチャートに表記している各種規約の省略をすべきか →Web掲載のみの今回は拡大が可能なため、省略はしない
- SS-MIX2には、「放射線治療データ交換機薬」「病理・臨床細胞データ交換機薬」は含まれてないで問題ないか。
 - →SS-MIX2の仕様書で確認済
- アナウンスや周知する方法が必要→JAHISホームページバナーに「New Iの表示

© JAHIS 2022



OVCのリンク確認

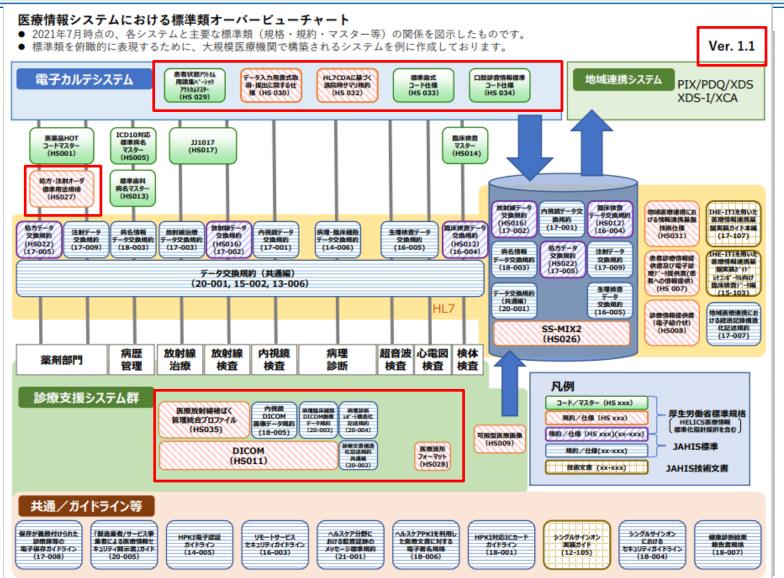
- リンク先が未定の4項目(厚労省標準)についての対応方針
 - →リンク先がない4項目については、以下のページへリンクさせる HELICS I.「医療情報標準化指針」一覧(採択されたもの) http://helics.umin.ac.jp/helicsStdList.html
 - →そのほかの厚生労働省標準規格についても、今後のリンク先が 変更になることを想定して、上記のリンクに変更する。





© JAHIS 2022





© JAHIS 2022



標準化の普及推進におけるセミナーの実施



セミナー企画開始

- 事業企画委員会の年間イベントと被らないようにする
- 企画内容によって企画主体組織が変わるため明確になってきてから検討する
- 開催形式をどうするか(オンサイト、Web開催、ハイブリッド)
- セミナー開催時期としては、1月末~2月ころが現実的。

・船社団法人 保健医療福祉情報システム工業会



開催日時:2021年3月5日(金) 15時~16時30分

『医療情報標準規格ができるまで』

JAHIS普及推進委員会 岩津聖二

『医療情報の標準化』

JAHIS普及推進委員会 田中宏明

『医療のICT関連の政策動向について』

厚生労働省医政局政策医療課医療技術情報推進室室長 前田彰久様 →急遽公務の都合により、同室長補佐 井高貴之 様がご発表

申し込み数 : 183名

当日参加者 : 137名 (参加率: 74.8%)

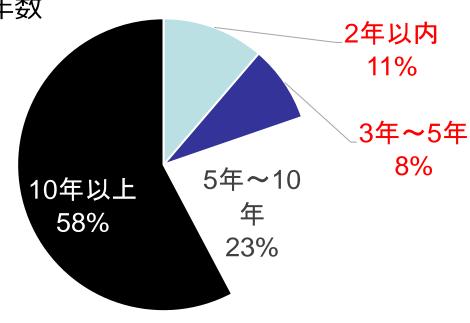
アンケート回答:71名 (回答率:51.8%)



アンケート結果1-1

受講者の医療IT業務における経験年数

2年以内	8件	11%
3年~5年	6件	8%
5年~10年	16件	23%
10年以上	41件	58%

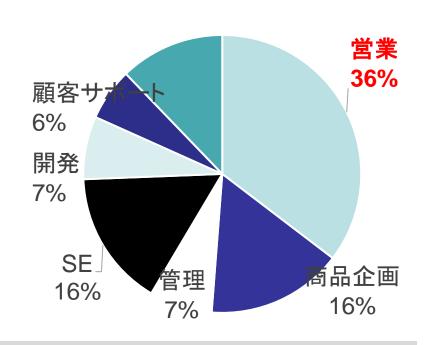


ターゲットに想定していた「若手」の参加が少なかった。 企画メンバーがみな10年以上のキャリアのベテランであり、若手目線での企画になっ ていなかった可能性がある。



アンケート結果1-3 参加者の職種について

営業	29	35%
商品企画	13	16%
管理	6	7%
SE	13	16%
開発	6	7%
顧客サポート	5	6%
その他 ※施工管理、事務職/研究職、 診療放射線技師、臨床工学技士 医療機関(薬剤師)、医療IT業務経験なし	10	12%



ターゲットに想定していた「営業」の参加が少なかった。(36%にとどまる) 「営業向け」としたにもかかわらず、「営業」以外の職種の参加が多かった。 (基調講演、技師ポイントのおかげか?)



アンケート結果1-4 本セミナーをどのように知ったか

JAHIS登録者メール	32件	45%
JAHIS会員からの紹介	17件	24%
JAHISホームページ	8件	11%
医療情報技師ホームページ	10件	14%
その他	3件	4%
回答無	1件	1%

「JAHIS会員からの紹介」には、JAHIS会員企業でJAHIS活動に参加していない人も含まれる可能性がある。

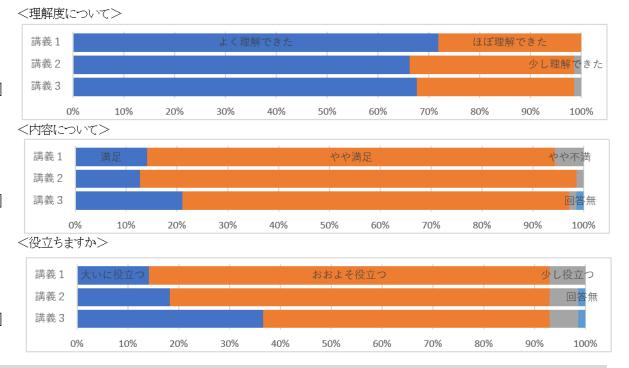
医療情報技師ポイント付与による集客効果があった。

「標準化」に対して情報を必要とするニーズが一定以上あると解釈できる。



アンケート結果2 プログラム毎の評価について

- 1. 『医療情報標準規格ができるまで』
- 2. 『医療情報の標準化』
- 3. 『医療のICT関連の政策動向について』
- 1. 『医療情報標準規格ができるまで』
- 2. 『医療情報の標準化』
- 3. 『医療のICT関連の政策動向について』
- 1. 『医療情報標準規格ができるまで』
- 2. 『医療情報の標準化』
- 3. 『医療のICT関連の政策動向について』



どのプログラムのどの項目も、90%以上で高い評価をいただくことができた

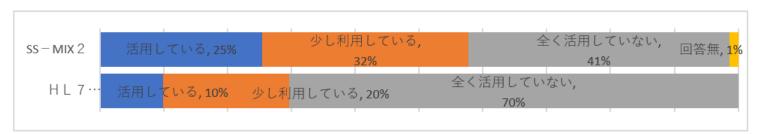


アンケート結果3 医療情報の標準規格について

<認知度>



〈利用度〉



HL7FHIRが、想定よりも浸透している印象を受ける。一方で、SS-MIX2は、全く利用していないが41%



アンケート結果4 今後取り扱ってほしいテーマ

標準化関連

実際に活用されている医療情報の標準規格についてや、世界の動向についてなど。

電子カルテの標準化について

何故、日本ではDICOMと比べてHL7が普及しないのか

各団体が推奨している標準化データの現状

各部門システムに関する標準化の方向性

各社標準化に向けての取り組み。PHRの今後の展開、スケジュール

標準化をした後に有用であったこと、活用事例、標準化したきっかけが聞きたいです

データヘルス改革プラン関連

電子処方箋、オンライン資格確認

データヘルス集中改革プランとの関わり、影響、JAHISとしての関わり

国のデータヘルス集中改革プランに関連する、標準化の情報提供を希望します

HL7 FHIR関連(8件)

具体的な実装方法、動向と課題、

国内事例/海外事例について扱って頂きたいです。

FHIRを使うと、病院は具体的に**どのように便利になるのか**を知りたいです。(Teamsとの連携など)

各システムベンダーによる医療情報連携のための独自仕様/規格からの脱却について

そもそもHL7 FHIRなどの標準仕様でつなげたいのか。それとも今のままで良いと考えているのか。

繋げたくない場合はその理由、もしくはその仕様で繋げたいのに外的/内的含めそれを阻害する問題等。

および厚労省の取り組みに関しては継続して取り扱って欲しい。



マスター・コード関連

各検査会社で検査マスターがバラバラ、電子カルテで取り扱いする場合の大きな障害

JLAC10について

マスタの標準化に関する動向

1単元として、マスタ(医薬品、特定器材、服用方法等)について取り上げてほしい。

データ活用関連

標準化したデータの、情報管理**センターやシステム・設備**に関する、直近及び将来的な設備指針・基準など同上の、**BCP関連**。同上の、医療機関施設毎でのグレード分けなど(あれば)

DWHやビッグデータについて取り扱って頂きたいです。

その他

コロナ禍電子カルテはどう変わるのか??

部門システムベンダーなので、全体的なことが不明な点も多いので、医療情報の全体的な把握に努めたい。

医療画像

大手システムの導入がむずかしい200床レベルの病院にリーズナブルな電子カルテシステムを提供するためには、 競争による価格低下が不可欠。ある程度のひな形を示しその上で各社が独自性を競うような体制になればいいと思う アンケートをweb方式にしてほしい。

海外の医療情報動向などを取り扱って頂きたい。理由は、コロナ禍で医療ITが遅れていると言われる現状を知りたい。 今後、介護との関わりついて聞いてみたいです。



セミナー企画

目的

前回の目的と同じ。

「医療情報システムの標準化普及活動の一環として、医療情報システムの拡販に携わる営業部門を主なターゲットとし、標準化の理解を深め日々の営業活動においても、標準化普及に努めてもらうための人材育成。」

• タイトル

継続的に実施し、定着させるためにも、今回からは「第 ○回」を付ける。



セミナー企画

目標

参加目標150人(前回比約10%UP)

対象

各会員企業にて核となってもらいたい中堅営業 普及のために門戸を広くしたい

- →営業職の集客率としては40%
- 開催時期

2月以降

• 開催方式

WebEXによる配信

設社団法人 保健医療福祉情報システム工業会



セミナー企画

• 受講料:

参加者の拡大を考慮し無料開催

インセンティブ:

受講時に医療情報技師ポイントを付与

© JAHIS 2022



セミナーテーマ

- そもそも、セミナーに集客したい若手のニーズをとらえているか?
- 各社の若手営業からのリクエスト確認
- ·HL7FHIR
- ・システムベンダー独自仕様からの脱却
- ・マスターコードの標準化
- ・標準化の現場にいる顧客の本音が聞きたい
- ・標準化した先の活用イメージ
- ・なぜこの技術を使うのかの背景

- ・電子カルテの標準化
- ・標準化の成功事例
- ・標準化が進まない阻害要因な何か?
- ・他業種の標準化の課題
- ・AIホスピタルにおける標準化の取り組み
- ・処方箋電子化(標準化の目線で)

【テーマ(案)】

- →電子カルテの標準化を含めた政府最新動向
- →医療情報の標準化
- → HL7FHIR

-般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会



第二回 JAHIS営業向け医療情報標準化セミナー

- 日時:2022年3月3日(木)15:00~17:00(受付開始14:30)
- 場所:WEB開催
- •
- 15:00~15:20 「なぜ標準化、なぜFHIR、産業の立場から」JAHIS医療システム部会相互運用性委員会 塩川 康成 様
- 15:20~15:50 「医療情報の標準化(仮題)」東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻医療情報学分野 教授 大江 和彦 様
- 15:50~16:30 「医療のICT関連の政策動向について(仮題)」
- 厚生労働省医政局 研究開発振興課 医療技術情報推進室 室長 田中 彰子 様
- 16:30~16:50 質疑応答

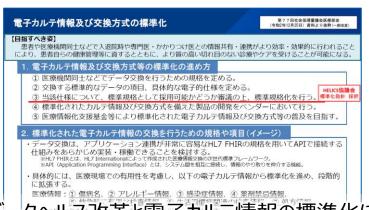




「なぜ標準化、なぜFHIR、産業の立場から」

JAHIS医療システム部会相互運用性委員会

塩川 康成 様





東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻医療情報学分野教授 大汀 和彦 様

「データヘルス改革と電子カルテ情報の標準化について」











「標準化の普及、認知度を高めることで会員各企業やお客様に対して価値を提供」

「標準化が存在しているからこそ、 具体的な技術検討の議論や企業間の競争が成り立つ」

2021年度 普及推進委員会 パンフレットの定期的な最新化

標準化の普及推進におけるセミナーの実施

今後とも皆様方のご協力をよろしくお願いいたします

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会



健康で豊かな国民生活を保健医療福祉情報システムが支えます

ご清聴ありがとうございました